

# 日本文学研究専攻「書物交流論」を受講して

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 高田 宗平

# 日本文学研究専攻「書物交流論」を受講して

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 高田 宗平

日本文学研究専攻「書物交流論」の授業で、筆者が担当した漢籍は、博士論文でも扱う旧鈔本『論語義疏』についてである。

江戸時代後期の漢籍解題書である『経籍訪古志』に著録される旧鈔本『論語義疏』の解題を講読し、書誌内容を把握した上で、旧鈔本『論語義疏』の現蔵機関を調べ、所在目録の作成に取り組んだ。また、影印や紙焼き写真を見ることができるテキストは、蔵書印等から、旧蔵者を調べ、近年注目されている書物流動史の視座からもアプローチをした。

現在、『令集解』の依拠すべきテキストといえば、最良と認知されている国立歴史民俗博物館所蔵田中教忠旧蔵本を底本としている国史大系所収本が通例である。しかし、『令集解』の諸写本の性格等について十分解明しないままに、底本として使用されていることが少なからずある。そこで、日本古代の漢籍受容史という視座も含めて、『令集解』所引『論語義疏』の部分を通して、『令集解』の諸写本について考察し、依拠すべき底本を確定した後に、『令集解』所引『論語義疏』と『論語義疏』の諸旧鈔本、同時にその他日本古代中世典籍所引『論語義疏』と比較対校していくことにより、『令集解』の諸写本の性格を知る上での判断材料を獲得し、あわせて、日本古代中世に流布した『論語義疏』の鈔本の性格、および日本古代中世学問史の特質の解明を目指している。以上のような内容が博士論文の核である。この研究の一環として、旧鈔本『論語義疏』の文献学的考察が必要不可欠である。『経籍訪古志』に著録される旧鈔本『論語義疏』の解題から流伝や行方を調べることにより、旧鈔本『論語義疏』の所在目録作成の基礎作業ができた。所在目録は博士論文の附録とする予定である。

陳捷助教授の実地の指導により、日中文化交流史からの知見や、漢籍文献学の発祥の地で研究が盛んな中国の漢籍文献学の研究成果にふれることができた。

なお、詳細については、別稿を用意している。